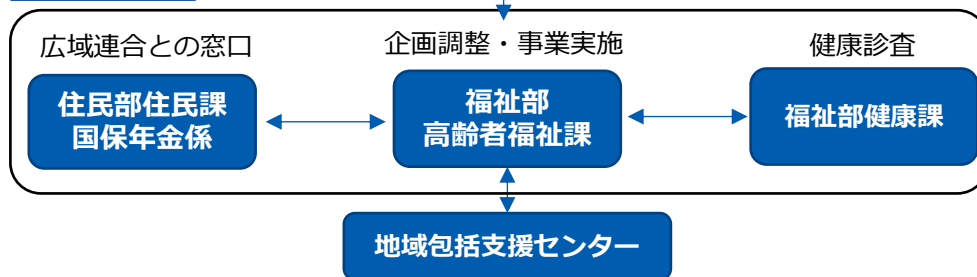


東京都瑞穂町 一庁内外連携で情報・意識を共有して取り組む一体的実施

町の概況（令和7年4月1時点）

人口	31,966人
高齢化率	30.2%
後期被保険者数	5338人 (令和7年3月末時点)
日常生活圏域数	1圏域

実施体制



瑞穂町医師会
西多摩医師会

理学療法士協会
瑞穂町支部

ハイリスクアプローチ
委託先企業



瑞穂町公式キャラクター

みずほまる

取組の経緯

当事業の開始初年度である令和2年度からスタート。事業開始前は高齢部門では介護予防事業（一次予防及び二次予防）を取組んでいたが、ヘルス部門との連携についての意識はあまりしていなかった。そのような中で、当事業がスタートすることになり、国からの財政支援で専門職の配置とし当事業に取り組む体制を築けたため早期にスタートすることができた。

企画調整・関係機関との連携

● **企画調整**
KDBシステムやニーズ調査等の分析により健康課題を明確化。事業実績の整理・評価を実施し、既存の関連事業との調整や内容改善を行っている。

● **庁内連携**
庁内関係部署で会議を複数回実施し健康課題や事業の進捗状況を共有するほか、各部署の担当者同士で顔の見える関係を構築し、随時庁内で情報共有を行うようにしている。

● **医療関係団体等との連携**
町・医師会と定例会等で健康課題や進捗状況の説明や企画の協力依頼を実施するほか、随時直接医療機関から連絡が入る体制を整えている。

ハイリスクアプローチ

● **低栄養防止・身体的フレイル**
KDBシステムから抽出した高リスク者に、3～6か月の間、訪問・電話・会場面接等による指導を専門職で実施。初回アセスメント結果から目標を設定し、達成状況を評価する。必要に応じて医療の受診勧奨・栄養指導、地域包括支援センターと連携して地域支援事業のサービス・活動や通いの場につなげ、訪問による継続指導が必要な場合は直営で看護師や管理栄養士が介入する。

● **健康状態不明者対策**
KDBシステムから抽出した対象者に、郵送による勧奨・勧奨に応じない者に対する保健師等によるアウトリーチ支援を実施。3～6か月の間、必要に応じて訪問や電話による指導を行う。初回アセスメント結果から必要に応じて医療受診やサービス利用を勧奨し、フレイル状態や健診・医療受診状況を評価。適宜地域包括支援センターに接続する。

ポピュレーションアプローチ

● **フレイル状態の把握と予防等の健康教育、健康相談**
地域支援事業の通いの場において、地域の健康課題に対応した健康教育や相談を実施。年1～2回ずつ巡回してフレイルチェックや体力測定、保健指導、健康教育のミニ講座等を実施している。

● **気軽に相談が行える環境づくり**
地域包括支援センターが行う出張相談等気軽に高齢者が相談できる場を周知。地域における多世代交流拠点等の日常生活拠点の実情を把握してニーズに応じた相談できる環境づくりに取り組んでいる。



◀ポピュレーションアプローチの様子（体力測定）

東京都瑞穂町

事業結果と評価概要（令和6年度結果）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	低栄養予防	29	5	面談が完了できた者のうち、 ①体重が維持・改善した者の数 ②BMIが維持・改善した者の数	面談完了者2名、最終面談辞退者2名、入院1名 ① 2人 ② 2人
	身体的フレイル予防	18	4	面談が完了できた者のうち、 ①質問票での該当者の数 ②サービスにつながっている者の数	面談完了者4名 ① 介入時4名→介入後2名 ② 医療受診者2名
	健康状態不明者対策	6	3	面談が完了できた者のうち、 ①質問票での該当者の数 ②サービスが必要な者のうち、介入後に医療・介護サービス等につながった者の数	面談完了者3名 ① 介入時3名→介入後 維持2名、不明1名 ② 介護申請1名
ポピュレーションアプローチ	健康教育・健康相談	-	105	参加者数、健診受診者数 等	状態把握結果による個別の健康相談や、通いの場の健康課題について健康教育を実施してきたことにより、集団の健診受診者数が増加するなど効果が見えてきている。
	フレイル状態の把握	-	123		

<庁内外での情報と意識の共有>

- 外部委託により実施しているハイリスクアプローチでは複数職種による介入を実施し、必要な場合には都度報告が上がるようにしている。
- 現場の職員レベルで一体的実施事業への理解を醸成するため、地域包括支援センターの職員にも一体的実施に関する研修受講を促したり、ポピュレーションアプローチに参加協力してもらうようにしている。

<ポピュレーションアプローチ>

- 介入する通いの場の選定に当たっては、通いの場からの相談・要望を踏まえるなど通いの場の自主性を阻まないよう留意している。
- 参加者の半数が健診を受診していなかった通いの場で受診に向けた講座を実施したところ受診者数が増加し、重ねて毎年テーマを変えていくと該当する質問票の項目に対する回答が改善する効果が見られた。

課題・今後の展望

- 口腔リスクが高齢者のみならず町全体で課題となっている。多世代で生活している人が多い地域があるので、次年度以降は現行のハイリスクアプローチで対象となる人を中心に口腔に対するハイリスクアプローチも併せて実施し、高齢者への口腔対策を通じて町全体の口腔リスクの低減に繋げていきたい。